

統計の眼

アメリカの種子産業における生産の集中
現在、アメリカ農業は大きな構造変化の過程、つまり転換期にある。それは、生産の集中と垂直的統合の進展という形に集約される。カーギルによるコンチネンタルの穀物部門の買収に象徴されるように、大手農業関連企業が猛烈な勢いで水平的かつ垂直的に事業を再編している。このような巨大企業による寡占化が急速に進んでいる現状に対して、生産者は不安を抱いている。寡占化により生産者の販路は極端に限定され、いわば買い手有利な状況に置かれることにより、価格交渉等において、生産者の交渉力は弱体化することとなる。そのため、寡占化に反対する政治的な動きが活発である。たとえば、一九九九年三月には、農業州の二三名の上院議員が、クリントン大統領に農業及び食品産業に対する反トラスト法の適用強化を要請している。また、議会で法規制の強化を目的とした法案も検討されている。

このような変化を引き起こしている要因として幾つか考えられるが、契約生産の急速な進展とともに主な要因とみられているのが遺伝子組み換え技術である。近年、遺伝子組み換え技術が急速に発展しており、欧州を中心にアメリカ主導の組み換え作物の推進には反発が強い。たしかに、予想を上回る反発を受けて、アメリカにおける組み換え作物の比率は昨

年に比べてやや減少するとの見方もされている。それでも、昨年時点で大豆の除草剤耐性品種の作付面積は、全体の五七%に達している。とうもろこしにしても、組み換え品種が約四〇%弱を占めるといふ。このような組み換え作物の普及を強力に推し進めているのが大手種子開発企業で、大きく農薬系(デュポン、ダウ、モンサント)と製薬系(ノヴァルティス、アヴェンティス)に分類され、それぞれ既存の種子メーカーの買収を強力に推し進めている。この背景には、遺伝子組み換え技術による種子開発には、多額の投資と高度な技術の導入が必要不可欠で、単独の企業では対応しきれない、という事情がある。したがってこのような買収は今後も継続すると予想されるので、種子産業の再編は注目される。(大江)

種子産業における上位企業のシェア(%)

作物名	上位企業名	シェア
とうもろこし	デュポン、モンサント、ノヴァルティス、ダウ	69
大豆	モンサント、パイオニア、ノヴァルティス、ダウ	47
小麦	モンサント、パイオニア、ノヴァルティス、ダウ	36
綿	モンサント、パイオニア、ノヴァルティス、ダウ	87

(資料) アメリカ農務省